

競技場内トイレの実態と今後の課題～女性の視点からみた一考察～

The realities and problem in the future of rest room in stadium Consideration seen from woman's aspect

1K05B201

藤田 絢子

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 宮内孝知先生

【研究の目的】

近年、スポーツ観戦における女性客は増加している。それぞれの競技場も、女性客をさらに増やそう、楽しませようと女性客用のイベントを開催するなどソフト面の充実を図っている。しかし、いざ競技場に足を運んでみると、ハーフタイム中の女性用トイレには長い行列ができていることも多く受け入れ体制が整っていないのではないかと感じることも多い。そこで、ソフト面の充実はもちろんだが、観戦客を受け入れるハード面の充実化も必要であると考えた。しかし、先行研究でも競技場内トイレに関する研究は見当たらなかった。そこで、競技場内トイレの実態がどのようになっているのか、またそのトイレを利用する人々がどのような思いを抱きながらトイレを使っているのかを知ること、スポーツを観戦するための競技場内トイレが今後どのような形であることが求められているのかを、女性の視点から明らかにしていきたい。

【調査概要】(すべて 2008 年)

1. 競技場内トイレの実態調査

- ・調査時期:10月25日～11月10日
- ・調査対象:Jリーグ全試合開催地と国体メイン会場数カ所の全52競技場
- ・調査技法:調査表を郵送、期日内返却を依頼
- ・回収率 :66.7%

2. 競技場内トイレ利用者の意識調査

- ・調査時期:11月9日10時半～14時
- ・調査場所:味の素スタジアム
- ・調査対象:東京ヴェルディのサポーター93名
- ・調査技法:留置法

- ・回収:93通

3. インタビュー調査

- ・調査時期:11月7日17時～17時半の30分間
- ・調査場所:岸記念体育館1階、スポーツマンクラブ内
- ・調査対象:株式会社スポーツ21エンタープライズ 三ツ谷洋子氏

【結果と考察】

1. 競技場に訪れた人々は100%トイレを利用することがわかった。また、複数回利用する人が8割を超えた。女性の使用する便器タイプは大便秘器洋式が61.8%と大便秘器和式を使用する38.2%を上回った。しかし実態として約7割の競技場が洋式トイレよりも和式トイレを多く設置していた。
2. 「混雑の具合」イメージ調査では、男性のほうが女性を上回る結果となった。なお、8割の人が混雑しているイメージを抱いていた。また「きれいさ」でも男性のほうが「汚い」と感じる人が多かった。なお、7割の人がきれいであると示した。
3. トイレを使用する際に一番重要である点は、施設全体の新しさなどではなく男女を問わず清掃状況であることがわかった。
4. 女性はユニフォームへの着替えを化粧室で行うことがわかった。化粧室に関しては要望も多く、満足度は11項目の内最下位となった。なお、実態として化粧コーナーを単独で設置している競技場は2割にとどまった。改善の余地が最もみられる点となった。

【結論】

全体的に女性のほうが競技場内トイレに対して不利な状況にあるのではないかと考えていたが、イメージ調査や満足度の項目でも男性のほうが上回る点が

あり一概に言うことができないことがわかった。そして競技場の新旧に関わらず、清掃による清潔さを保つことで満足度を上げられるという結果がでた。また、実態として設置の遅れている洋式トイレの数の増加や化粧室をトイレとは別のスペースに作ることが求められていることがわかった。